

目次

口 絵

発刊のことば

本誌を読まれる人のために

五十崎町長 森 永隆 男

第一編 自然環境

第一章 位置・面積・人口 3

第一節 位置 3
 数理的位置 交通的位置

第二節 面積 6

第三節 人口 7
 人口動態 年齢別人口構成

第二章 地質・地形 10

第一節 四国の地質 11

目次

領家帯 三波川帯 秩父帯 四万十帯 12

第二節 五十崎町の地質 12

第三節 五十崎町の地形 16

山地のようす 丘陵地のようす 台地・低地のようす

大久喜鉱山 川上採石場 池窪の石切場 福岡の苦灰岩(ドロマイト) 採石場跡 大
久喜のマンガン鉱採掘跡 女体川の五色石 住吉上流の大岩 御祓川の溪谷(ドウ
ド) 田羅里大権現の巨石

第三章 気象 20

第一節 気温 20

第二節 降水量 20

第三節 霧 21

第四節 風 22

第五節 その他 23

第四章 生物 23

第一節 植物 29

小田川流域の植物 小田川流域の帰化植物 低山の植物

第二節 動物 32

陸生動物 水生動物

第五章 水害と治水 40

第一節 水害と治水の変遷 40

第二節 水害に関する資料 41

第二編 歴史

第一章 原始時代 49

第一節 先土器時代と縄文式文化 49

洪積世の水河時代 旧石器時代と遺跡 縄文式文化

第二節 農耕文化の形成 51

弥生時代の文化 発掘調査と出土品

第三節 巨石文化と遺構 59

巨石崇拜と大洲地方の遺跡 五十崎町の巨石遺跡

第四節 少彦名命の伝説と神社 62

神南山名称考 少彦名命の伝説 神南山周辺出雲系神社

第二章 古代と律令国家……………65

 第一節 古墳時代の五十崎……………65

 第二節 大化の改新……………66

 国、郡、里制の成立……………66

 第三節 東大寺封戸と喜多郡……………67

 第四節 古代の豪族……………69

 廿日市吉祥院の草創 藤原純友の乱 河野氏の挙兵 平氏の滅亡と河野通信 比志城の戦……………69

第三章 中世……………74

 第一節 河野氏の勃興と盛衰……………74

 承久の変と河野氏 元寇の役と河野通有の活躍 元弘の乱と河野道盛……………74

 第二節 大津城主宇都宮氏……………79

 宇都宮一族の活躍……………79

 第三節 古文書にみる五十崎の豪族……………81

 清谷寺諸旦那讓状 熊野那智大社文書 柿原の陣替記……………81

 第四節 中世の古城砦……………84

 五十崎町内の古城址 龍王城史 鳥屋森城史 鷹の巣城史 菊ヶ森城……………84

第四章 近世……………95

 第一節 幕藩体制の発足……………95

 大洲地方に就封した大名の変遷 大洲・新谷藩成立……………95

 第二節 藩政の推移……………98

 検地 旧村の村高と人口 村の支配体制 農民の負担 旧村内の庄屋……………98

 第三節 豫州大洲好人録……………109

 重松村小百姓吉郎右衛門後妻貞女の事 古田村金八下女さんの事 大久喜村農民四兵衛鳥目差上候事……………109

 第四節 近世村落の生活……………112

 農民の統制 農民の衣食住……………112

 第五節 災害と飢饉……………117

 近世の三大飢饉 飢饉に対する凶荒備蓄……………117

 第六節 百姓一揆……………124

 江戸時代の一揆 一揆発生の要因 内ノ子騒動 奥福騒動 今宮堰分水争論……………124

 第七節 幕末期の藩政……………137

 土佐津山郷の梶原との交易 大洲・新谷藩主御狩之事 油絞りの事 郷筒（農兵取り立て）の事 幕末の土洲往来 坂本龍馬脱藩の道……………137

第五章 近代・現代

第一節 我が町の変遷

町村制・行政区画の変遷 部落(地区)財産統一 大字の区域変更と小字の廃止 国土調査事業

147 147

第二節 産業の移り変わり

木蠟業の盛衰 大久喜鉱山の歴史 明治・大正時代の郵便事業 五十崎牛馬大市の歴史 人と物の往来

164

第三節 住人のくらし

五十崎村・天神村の商店の引札 五十崎村「方円会」の創設 天神村平岡沖組の消費節約規定 農山漁村経済更生運動 大正・昭和中期の区の動向 天神村常会手牒(帳) 新生活運動

182

第三編 行 財 政

第一章 町村合併と行政

第一節 幻の合併

五十崎村、天神村の合併 五十崎町、天神村、御成村の合併 五十崎町、内子町の合併

203 203

第二節 五十崎町の誕生

合併促進協議会の発足 合併促進協議会 町名決定 合併の通知 新町建設計画

206

第三節 長期総合計画

第四節 五十崎町の現況

第五節 記念行事・表彰

合併一〇周年記念行事 合併二〇周年記念行事 合併三〇周年記念行事 合併四〇周年記念・中央公民館落成祝賀会

233 235 238

第六節 名誉町民・功労者

名誉町民 功労者 栄典受章者

247

第二章 行政機構

第一節 旧三村行政の変遷

第二節 行政機関・行政組織

歴代町三役・教育長 行政組織 事務機構の推移

251 253

第三節 町 議 会

町議会の機構 議員定数の推移 歴代町議会議長・副議長・議員

262

第四節 各種委員会・委員

教育委員会 選挙管理委員会 監査委員 農業委員会 固定資産評価審査委員会 公

275

第五章 近代・現代

第一節 我が町の変遷

町村制・行政区画の変遷 部落(地区)財産統一 大字の区域変更と小字の廃止 国土調査事業

147 147

第二節 産業の移り変わり

木蠟業の盛衰 大久喜鉱山の歴史 明治・大正時代の郵便事業 五十崎牛馬大市の歴史 人と物の往来

164

第三節 住人のくらし

五十崎村・天神村の商店の引札 五十崎村「方円会」の創設 天神村平岡沖組の消費節約規定 農山漁村経済更生運動 大正・昭和中期の区の動向 天神村常会手牒(帳) 新生活運動

182

第三編 行 財 政

第一章 町村合併と行政

第一節 幻の合併

五十崎村、天神村の合併 五十崎町、天神村、御成村の合併 五十崎町、内子町の合併

203 203

第二節 五十崎町の誕生

合併促進協議会の発足 合併促進協議会 町名決定 合併の通知 新町建設計画

206

第三節 長期総合計画

第四節 五十崎町の現況

第五節 記念行事・表彰

合併一〇周年記念行事 合併二〇周年記念行事 合併三〇周年記念行事 合併四〇周年記念・中央公民館落成祝賀会

233 235 238

第六節 名誉町民・功労者

名誉町民 功労者 栄典受章者

247

第二章 行政機構

第一節 旧三村行政の変遷

第二節 行政機関・行政組織

歴代町三役・教育長 行政組織 事務機構の推移

251 253

第三節 町 議 会

町議会の機構 議員定数の推移 歴代町議会議長・副議長・議員

262

第四節 各種委員会・委員

教育委員会 選挙管理委員会 監査委員 農業委員会 固定資産評価審査委員会 公

275

平委員会 282

第五節 表 彰 282

第三章 財政

第一節 本町財政の推移 283

第二節 旧三村の財政 284

五十崎村の財政 天神村の財政 御成村の財政

第三節 新生五十崎町の財政 289

第四章 社会福祉

第一節 戦前の社会福祉(社会福祉事業) 297

農繁期託児所 公益質屋 社会事業予算 社会事業から社会福祉へ 方面委員の活動

第二節 戦後の社会福祉 301

社会福祉協議会 生活保護と民生委員・児童委員 児童・母子福祉 老人福祉 身体障害者福祉 国民年金 地域改善事業 交通災害共済 町営住宅 民間活動

第五章 保健衛生

第一節 旧三村の保健衛生 329

明治・大正期の保健衛生 旧三村の保健衛生の沿革

第二節

五十崎町の保健衛生 333

合併後の保健衛生の沿革 御成診療所 母子健康センター 保健センターの活動

第三節

国民健康保険 346

環境衛生 348

第四節

五十崎町の水道 内山衛生事務組合 合併処理浄化槽 火葬場 353

第五節

医療関係施設 明治以前の開業医 明治・大正時代の開業医 昭和時代の開業医 現在の開業医 本町出身医師 356

第六章 土木建設

第一節 道路と橋梁 356

藩政時代の道路 明治・大正時代の道路 明治・大正時代の土木費 明治時代の橋梁

昭和初期の土木費

第二節 土木建設の推移・現況 359

土木費の推移 道路の現況 橋梁の現況 治水 砂防事業

第三節 四国縦貫自動車道 376

第七章 治安・警察

治安・警察 377

第一節 警察行政の沿革……………377

第二節 内子警察署の変遷と五十崎町の治安 駐在所の沿革……………382

第三節 犯罪・交通事故……………383

第三節 消防……………383

旧五十崎町消防団 天神村消防団 御殿村消防団 五十崎町消防団 大洲地区広域消防事務組合 五十崎町における火災・救急状況 県消防防災ヘリコプター訓練場

第八章 兵 事……………400

第一節 明治・大正・昭和における戦役……………400

第二節 戦死戦病死者名簿……………406

第三節 帝国在郷軍人会……………418

第四節 戦没者遺族連盟分会……………420

第五節 五十崎町戦没者遺族会……………420

第九章 選 挙……………421

第一節 選挙制度の変遷……………421

第二節 選挙の概要……………422

市町村議会議員選挙 市町村長選挙 郡会議員選挙 県議会議員・県知事選挙 衆議院・参議院議員選挙

院・参議院議員選挙

第一〇章 広 報……………431

第一節 広報のあゆみ……………431

第二節 広報活動の状況……………432

町政懇談会 広報五十崎 防災行政無線施設 公民館報

第十一章 官公署・諸施設……………435

第十二章 広域行政……………436

第一節 八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合……………436

第二節 内山地区施設事務組合……………438

龍王公園の開発……………440

第三節 大洲喜多特別養護老人ホーム事務組合……………441

第四節 大洲・喜多衛生事務組合……………443

第五節 八幡浜地区施設事務組合……………444

第六節 大洲市・喜多郡町村組合……………445

第七節 大洲地区内子運動公園事務組合……………445

第八節 喜多郡内陸部土地開発公社……………445

第一章 労働運動 448

第四編 産業経済

第一章 農業 453

第一節 明治・大正期の農業 453

耕地整理 453

第二節 戦中戦後の農業 456

農業経営の推移 主要農産物 果樹 家畜 養蚕業 葉たばこ その他の作物 456

第三節 農業共済組合 485

第四節 農業協同組合 486

農村の金融 旧五十崎町農業協同組合 天神村農業協同組合 御祓村農業協同組合 486

第五節 三農協の合併 490

合併後の施設の概要 農業協同組合の現況 490

第六節 井堰・溜池と灌漑 494

井堰 溜池 畑地の灌漑 494

第二章 林業 501

第一節 林野の状況 501

第二節 公有林 501

第三節 林産物の推移 504

第四節 林産物の流通 506

用材 薪 木炭 竹 その他の林産物 506

第五節 林業の近代化 511

第六節 森林組合 513

旧五十崎町森林組合 天神村森林組合 御祓村森林組合 513

第七節 森林組合の合併 514

森林組合の合併 五十崎町・内子町森林組合の合併 514

第八節 内山森林組合 515

しいたけ生産販売協議会 優良材の生産 515

第三章 商工業 518

第一節 商工業の変遷 518

商業 工業 518

第二節 商工会 544

第四章 漁業 547

第一節 漁業の歴史……………547

第二節 龍宮井堰遊漁(四つ手)組合の歴史……………550

第三節 川漁こよみ……………552

第四節 魚市場……………552

第五章 金 融……………554

第一節 金融の推移……………554

 頼母子講 公益質屋……………554

第二節 金融と銀行……………556

 伊予銀行五十崎支店 新谷銀行平岡支店 明正銀行五十崎支店……………556

第三節 その他の金融機関……………558

五十崎町農業協同組合 五十崎郵便局……………558

第四節 金融制度……………559

五十崎町中小企業振興資金 農林漁業金融公庫 国民金融公庫 住宅金融公庫……………559

第六章 交通運輸……………561

第一節 交通運輸の今昔……………561

第二節 小田川の水運……………563

川舟 亀ノ甲 筏流し……………567

第三節 町内の交通幹線……………572

国道五六号 県道 町道 御祓線の由来……………572

第四節 橋 梁……………577

豊秋橋 あげぼの橋 山王橋 瑞穂橋 新田橋 常盤橋……………577

第五節 陸上の交通運輸……………583

牛・馬車と荷車 人力車 自転車 オートバイ トラック(貨物自動車) 自家用車
タクシー バス(乗合自動車)……………583

第六節 愛媛鉄道と五十崎駅……………586

第七章 電気・通信・放送……………588

第一節 電灯事業……………590

電灯設置 電灯設置の沿革……………590

第二節 郵便事業……………592

五十崎郵便局の開局 五十崎郵便局の沿革……………592

第三節 電話事業……………599

電話架設 電話の普及……………599

第四節 放送とラジオ……………592

放送施設 ラジオ テレビ 新聞 機関紙

第五編 教 育

第一章 学校教育

第一節 学制以前の教育……………597

第二節 学制時代の教育……………597

第三節 教育令時代の教育……………599

第四節 小学校令時代の教育……………600

第五節 国民学校時代の教育……………601

第六節 教育民主化時代の教育……………601

第七節 各幼稚園・小学校の沿革……………602

幼稚園 小学校……………601

第八節 中学校教育……………628

六三制教育 旧五十崎中学校 天神中学校 御成中学校 五十崎中学校……………628

第九節 青年教育……………639

実業補習学校 青年訓練所 青年学校 その他の学校……………639

第二章 社会教育……………644

第六編 宗 教

第三章 教育行政

第一節 戦前の地方教育行政……………682

第二節 教育委員会制度の変遷……………683

第三節 教育委員会……………684

五十崎町教育理念 基本方針 諮問機関 親善交流 教育研究所 歴代教育委員……………682

第一節 社会教育のあゆみ

明治から第二次世界大戦まで 第二次世界大戦後から町村合併まで……………644

第二節 公民館活動……………647

青空公民館時代 館活動の時代……………647

第三節 公民館設置の経過等……………662

中央公民館設置の経過 全国表彰 歴代館長……………662

第四節 社会教育団体……………663

文化協会 体育協会 青年団 処女会 婦人会 PTA……………663

第五節 施設の概要……………678

旧公民館 新公民館 町民プール 歴史民俗資料館 町民体育館……………678

第一章 旧三村の宗教 693

第二章 神社 695

第三章 寺院 716

第四章 堂宇 725

第五章 天理教 745

第七編 民俗

第一章 社会生活 751

第一節 農民の生活 751

第二節 村落の構造 751

第三節 旧三村の民俗 751

五十崎村 天神村 御祓村

第二章 衣・食・住 754

第一節 衣生活 754

第二節 食生活 755

第三節 住生活 757

住居 照明

第四節 その他 761

化粧 履物 民具

第三章 通過儀礼・民間信仰 764

第一節 産育習俗 764

帯祝い 名付け 初詣り 初節句

第二節 婚姻習俗 765

婚約 結納 婚儀 披露宴

第三節 厄年・年祝い 768

第四節 葬儀習俗 768

第五節 民間信仰 770

講 雨乞い 新四国八十八ヶ所詣り

第四章 伝承・年中行事 777

第一節 郷土行事こよみ 777

第二節 伝承・年中行事 778

第五章 子供の生活……………803

 第一節 子供の生活……………803

 第二節 子供の遊び……………803

 第三節 子供の歌……………806

第六章 郷土芸能……………809

 獅子舞 凧踊り 大凧出世太鼓……………809

第七章 娯楽……………813

 第一節 娯楽施設……………813

 天満座 五十崎座 天神館……………813

 第二節 その他……………816

 自転車競争 草競馬 大衆浴場 浪曲(チョンガリ、浪花節) 力石……………816

第八章 口頭伝承……………819

 第一節 昔話……………819

 第二節 民謡……………820

 第三節 俚諺・言伝え・迷信……………827

第八編 諸芸・文化財・観光

第四節 方言……………829

第一章 諸芸……………837

 第一節 書道……………837

 第二節 絵画……………838

 第三節 俳句……………841

 五十崎の昔の俳句 五十崎の現在の俳句 小・中学生の俳句……………841

 第四節 町刊行図書……………847

第二章 文化財……………849

 第一節 町指定文化財……………849

 第二節 県指定文化財……………860

 第三節 指定文化財一覧……………861

 町指定文化財 県指定文化財……………863

第三章 観光……………863

第一編 自然環境



五十崎の雲海（神南山より写す）

目次

第一節	戦前の観光	863
第二節	戦後の観光	863
	観光の主なあゆみ	863
	年中行事	863
	凧博物館	863
	観光マップ	863
第三節	名所・旧跡	870
	名所	870
	旧跡	870

第九編	人物	877
年表		921

編集を終えて
五十崎町全図
町誌編纂委員
町誌編纂に協力していただいた方々